

HUSTEDT, F. 1926. Untersuchungen über den Bau der Diatomeen. 1. Raphe und Gallertporen der Eunotioideae. Ber. deut. bot. Ges. 44: 142-150.

—, 1930. Bacillariophyta. In A. PASCHER [ed.], Süßwasser-Flora Mitteleuropas. ed. 2. no. 10. Gustav Fischer, Jena.

—, 1932. Die Kieselalgen Deutschland. Östereichs und Schweiz unter Berücksichtigung der übrigen Länder Europas sowie der angrenzenden Meeresgebiete. In Rabenhorst [ed.], Kryptogamen-Flora von Deutschland, Österreich und der Schweiz. 7(2): 1-845. Acad. Verlag., Leipzig.

KARSTEN, C. 1928. Abteilung Bacillariophyta. In A. ENGLER und K. PRANTL [ed.], Die natürlichen Pflanzenfamilien. Wilhelm Englmann, Leipzig.

KOLBE, R. W. 1956. Zur phylogenie des Raphe-Organs der Diatomeen; *Eunotia (Amphicampa) eruca* Ehr. Bot. Not. 109: 91-97.

PATRICK, R. & C. W. REIMER. 1966. The diatoms of the United States I. Monogr. Acad. Nat. Sci. Philadelphia.

RALFS, J. 1861. In PRITCHARD, A., A history of infusoria. Whittaker, London.

小林: 184 東京都小金井市貫井北町4-1-1, 東京学芸大学生物学教室  
南雲: 102 東京都千代田区富士見1-9-20, 日本歯科大学生物化学教室

### 小林 弘: 論文の引用文献欄への文献の引用法について

Hiromu KOBAYASI: The guide to the bibliographic citation of botanical literature

筆者はさきに、国際植物命名規約に手引きされている文献の引用法について紹介した(小林 1977)。その後、雑誌“藻類”の編集に携わってみると、これだけでは十分でないことを痛切に感じたものである。というのは、これでは逐次刊行物の引用法には詳しいが、単行本や単行本中の一章、または叢書の中の一冊あるいはその一章をどのように引用するかが、しばしば問題となるためである。雑誌“藻類”の体裁を26巻より改訂するに当って、投稿案内も改訂する必要がある、この問題について、欧米の刊行物などにつき検討を行ったところでは、句読点をどうするかというようなマイナーな点ではそれぞれ違いはあっても、一定の基準というものがわかり、ある程度の見通しを得たので、ここに紹介したい。

#### I. 文献引用の条件

文献引用欄に文献を引用する目的は、読者に原著の概要を伝えることと、読者が興味をもち、同じ文献を参照したいとき、図書館などに行き目的の著書をさがし当てることができることの2点にあると思われる。この場合、始めの条件を満たすためには、多少のスペースは必要となるが、タイトルぐらいは省略しないで掲載する必要がある、また第二の条件を満たすためには、図書目録がどのようにして作られているかを知り、それに合わせて引用法も考えられなければならない。

#### II. 図書目録について

図書目録がどのように作られているかは、目的とする論文なり著作なりに到達することと密接な関係にあ

る。そのため、日本目録規則(1965, 1977 新版一予備版)および米英目録規則(1966, 1968 日本版)などから、その概略を紹介したい。

図書目録、下に示す(1)~(4)の項目からできている。

- (1) 標目: 記入の最初に記載され、図書の排列や検索の手がかりとなるもの。科学論文では著者名が標目として取り上げられる。
- (2) 標題または書名(タイトル): 目録の最重要部分でこれには巻(vol.)と号(no.)までが含まれる。
- (3) 対照事項: 頁数, 冊数, 図, 大きさなど, 著作を物理的対象として記述する事項。
- (4) 出版事項: 出版地, 出版社, 出版年など。文献引用では、通常出版年は著者名のあとに行き、出版社出版地の順で記入される。

図書目録が上述の4つの要素からなっているので、文献引用も、この4つの条件を満たしていればよいし、引用に当っての句読点の使用も、この4つの要素をはっきりと対等に分けるような方法で行なわれればよい筈である。

#### III. 具体的引用例

今まで述べてきたことから、文献引用では、原著の概要を伝えることと(以下A条件とよぶ)、図書カードで引き当てること(以下B条件とよぶ)の2条件を満足させるような引用をしなければならない。この点をもとに、以下若干の引用例についてふれてみたい。

- (1) 単行本の引用: 単行本の引用では著者と図書目録の標目は共通する。したがって(B)条件についてのみの引用でよい。

[例 a] 広瀬弘幸.<sup>(1)</sup> 1959.<sup>(4)</sup> 藻類学総説.<sup>(2)</sup> 1~6, 1~9, 1~5, 1~2, 1~506, 1, 1~87.<sup>(3)</sup> 内田老鶴圃, 東京<sup>(4)</sup>.

[例 b] 広瀬弘幸.<sup>(1)</sup> 1959.<sup>(4)</sup> 藻類学総説.<sup>(2)</sup> 内田老鶴圃, 東京.<sup>(4)</sup> または (1959).

(注1) 出版事項を分け, 出版年を標目の次に置くことが多いが, 最後にもってきてよいし, また括弧でくくってもよい。

(注2) 単行本の場合, 対照事項は通常省く。参照させたい頁数を指示したいときは, 本文中の引用で行なう方がよい。…岡村 (1967 p. 56) によって発見されたものである……, などとする。

(注3) 句読点は, ', ;, :, · の順でより強い停止を表わすものと考えてよいが, 国際植物命名規約 (小林 1977) などでは, 各項目をピリオドで切る方法を取っている。しかし, 標目 (著者名) のあとにはピリオドを省いたり, ピリオドより弱いコロン (: ) で切ったりもする。また標題 (タイトル) は原著に忠実に引用する。

[例 c] Stearn, W. T.<sup>(1)</sup> (1966). Botanical latin.<sup>(2)</sup> i~xiv, 1~566.<sup>(3)</sup> Nelson, London.<sup>(4)</sup>

(注4) 混同をさけるためには, 著者名はフルネームで書くのが理想的であるが長くなりすぎるので, 通常省略が行われる。著者が2人以上のときは, フェーストオースーのみラストネームを前に出す方法 (Drum, R. W. and J. T. Hopkins または, Coombs, T., P. J. Halicki and B. E. Volcani) または, すべてについてラストネームを前に出す方法が用いられる (Drum, R. W. and Hopkins, J. T.).

(2) 単行本中の1章または1論文の引用: 通常単行本中の1論文については図書目録に取られていないので, (A), (B) の2本立てで引用する。(A) の引用法は(B)に準じて行なう。

[例 d] (A) Drebes, G.<sup>(1)</sup> 1977.<sup>(4)</sup> Sexuality,<sup>(2)</sup> 250-283.<sup>(3)</sup> (B) In D. Wernes [ed.],<sup>(1)</sup> The biology of diatoms.<sup>(2)</sup> i~vii, 1~498.<sup>(3)</sup> Blackwell Sci. Pub., London.<sup>(4)</sup>

(注5) 出版年は(A)で挙げてあるので(B)では省略し, また(B)の書き出しは通常 In で始める。その方法としては, ① In D. Werner's The biology of diatoms. ② In D. Werner, The biology... ③ In D. Werner ed., The biology... ④ In: Werner, D. The biology... などいろいろあるが, 編者 (editor) にも, その書物の内容に対する関与の程度に差があり, 第3者には判然としない場合が多いので, 不確定事項を示す角括弧でくくり, In D. Werner [ed.], The biology of diatoms. のように引用する例が多くなってきている。なお in

が著者名のみにかかるのはまずいので標題までを1文として句読点を打つ。

[例 e] (A) 広瀬弘幸・平野 実.<sup>(1)</sup> 1977.<sup>(4)</sup> 藍藻綱.<sup>(2)</sup> 1~151.<sup>(3)</sup> 広瀬弘幸・山岸高旺編, 日本淡水藻類図鑑.<sup>(2)</sup> 1~25, 1~933.<sup>(3)</sup> 内田老鶴圃, 東京.<sup>(4)</sup>

(3) 叢書中の1分冊の引用: 特にモノグラフなどではこの例が多い。

[例 f] (A) Hustedt, F.<sup>(1)</sup> 1930.<sup>(4)</sup> Bacillariophyta ed. 2.<sup>(2)</sup> i~viii, 1~466.<sup>(3)</sup> (B) In A. Pascher [ed.], Süßwasser-Flora Mitteleuropas no. 10.<sup>(2)</sup> Gustav Fischer, Jena.<sup>(4)</sup>

(注) 標題は原著に忠実に引用するという主旨からは ed. 2 は Aufl. 2., no. 10 は Heft 10 と引用するのがすじであるが, vol. no. ser. ed. など英語に訳して引用する方がわかりやすい。なお刷り (増し刷り. impression, print, Abdruck, Druck, Abzug) は通常引用しない。

(4) 研究雑誌 (逐次刊行物) の1論文の引用: 論文の文献引用としては, この場合が最も多い。したがって, 国際植物命名規約の中にも, この場合を中心として guide されている (小林 1977)。①巻次はゴシック体にしてコロンで切り, 次に頁数を打つ。②通常出版地, 出版社は省略する。など独特の扱いがなされることになっている。このような慣例に従うと, かえって雑誌であることがはっきりするので都合がよい。

[例 g] (A) 森 通保.<sup>(1)</sup> 1970.<sup>(4)</sup> *Batrachospermum ectocarpum* Sirod. の分類学的研究.<sup>(2)</sup> (B) 藻類. 8<sup>(2)</sup>: 1-8.<sup>(3)</sup>

[例 h] (A) Mori, M.<sup>(1)</sup> 1975.<sup>(4)</sup> Studies on the genus *Batrachospermum* in Japan.<sup>(2)</sup> (B) Jap. Journ. Bot. 20<sup>(2)</sup>: 461-485.<sup>(3)</sup>

#### IV. 引用文献

American Library Association. 1967. Anglo-American Cataloging Rules; North American Text. American Library Association, Chicago.  
小林 弘. 1977. 国際植物命名規約 (1972) に手引きされている文献の引用法について. 藻類. 25: 89-92.

日本図書館協会. 1965. 日本目録規則. 日本図書館協会, 東京.

植村長三郎編. 1967. 図書館学・書誌学辞典. 有隣堂, 東京.

東京学芸大学生物学教室 (184 小金井市貫井北町4-1-1)  
Department of Biology, Tokyo Gakugei Univ., Kogonei, Tokyo, 184 Japan.  
Jap. J. Phycol. 26(4): 175-176. 1978.